

---

# イマジンあにめ～もし良太郎がイマジンあにめに加わったら～

吉田眼鏡

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イマジンあにめ〜もし良太郎がイマジンあにめに加わったら〜

### 【Nコード】

N6258J

### 【作者名】

吉田眼鏡

### 【あらすじ】

え？　ここどこ？　みんな何でデフォルメ状態なの？

うわっ！　僕もデフォルメに！？　イマジンあにめって何なの〜

〜！？

(前書き)

デネブ「最初に言っておく！ この小説はタイトル通り良太郎がイマジンあにめになっている！ 正直吉田眼鏡も申し訳ないと心の中で思ってる」

吉田眼鏡「ついでに言っておく！ 本編にデネブは出ない！」

デネブ「そんなん〜！」

「あれ？　ここどこ？」

野上良太郎はどこかの森にいた。

「おー良太郎じゃねえか」

「モモタロス！？　なんかいつもと感じ違くない？！」

モモタロスの体は二等身の体に微妙に大きな顔、ぶっちゃけるとデフォルメ状態だった。

「ああ？　何言ってるんだよ。イマジンあにめだから当たり前じゃねえか」

「へ？　イマジンあにめって何？」

「えーとだな……あれ？　何だっけか？」

「もう、先輩じゃ話にならないよ。僕が行く」

ウラタロスが現れてモモタロスを吹き飛ばす。

「どわーっ！」

「え？　ちょっ、ウラタロス、あれ大丈夫なの？」

良太郎はモモタロスが吹き飛んで行った方向を指差す。

「大丈夫だよ。イマジンあにめだからね」

「だからイマジンあにめって何?!」

「まあ、要するにさ、今みたいのが続くんだよ」

「ええ〜!? どういう事が全然分からないよ。っていつか何でウラタロスもデフォルメされてるの?」

「良太郎もデフォルメされてるよ」

「ええ!?!」

そう言われて良太郎は自分の体を見る。

すると確かに自分の体もデフォルメ状態になっていたのだ。

「これって、どういう事なの?」

「だからさ、イマジンあにめなんだよ」

「何かイマイチピンと来ないんだけど……」

「次は俺の出番や!」

今度はキンタロスが現れて、ウラタロスを吹き飛ばした。

「キンタロス!? やっぱり、デフォルメ状態なの!?!」

「そうや！ イマジンあにめやからな！」

「何でイマジンあにめだと、デフォルメ状態なの？」

「イマジンあにめやからや！」

「いや、だから何でイマジンあにめだとデフォルメなの？」

「イマジンあにめやからや！」

「だから……」

「あーもう熊ちゃん！ 僕が行く！」

リュウタロスが現れやっぱりキンタロスを吹き飛ばした。

「……もう、ツツコム気力も無い……」

「良太郎にイマジンあにめについて教えるけど良いよね？ 答えは聞いてない！」

「やっぱり答えは聞かないんだ……」

良太郎はげんなりとして言った。

「良太郎、イマジンあにめ出るの初めてだよな？ この僕がしっかりと教えるよ。おバカなモモタロスと違ってちゃんと説明するから」

「うん、じゃあ教えてくれるかな？」

「うん。イマジンあにめっていうのはね。みんなで、ドカーン！  
バコーン！　って好き勝手にやってズババーン！　みたいな感じで  
いくんだよ」

「ぜ、全然分らない……」

「だあーっ！　俺がやる！　代われ、鼻たれ小僧！」

「いや、俺が漢らしく粋に教えたる！」

「ちょっと、先輩とキンちゃんは今引ッ込んでてよ。二人共全然説明  
出来て無かったでしょ。僕が行くよ」

いつの間にか吹き飛ばされたはずのモモタロス、ウラタロス、キン  
タロスが現れてケンカし始めた。

「何だと、亀野郎！」

「いくら亀の字でも許さへんで！」

「ちょっと、僕が説明するんだってば！　みんなは今引ッ込んでてよ！」

さらにリュウタロスまで加わって取っ組み合いのケンカになった。

「ちょ、ちょっと、みんなやめてよ！」

「良太郎にイマジンあにめについて教えるのは俺だ！」

「違う！ 俺や！」

「僕だよ！」

「僕が教えるけど良いよね？ 答えは聞いてない！」

「答えは俺だ！」

が、しかし良太郎の制止もむなしく、ケンカはさらにエスカレートしていった。

「もう！ 結局イマジンあにめって何なの！？」

モモタロス達がピタリと止まり、良太郎の方を見る。

「何ってそりゃあ」

「はつきり言っちゃつと……」

「……ギャグ（だ）（だよ）（や）（だね）」「」「」

「……あーなるほど」

（END）

（後書き）

いや、本当に色々すいません。 m ( \_ \_ ) m

つい、やってしまいました。

もし笑えたら感想下さい。

かーなーり喜びます。

最後に言っておく！ 仮面ライダー電王よりリカル・クライマック  
スーもよろしく！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6258j/>

---

イマジンあにめ～もし良太郎がイマジンあにめに加わったら～

2010年10月9日22時54分発行